

平成 29 年度 公益財団法人きょうと京北ふるさと公社事業報告書  
平成 29 年 4 月 1 日 ～ 平成 30 年 3 月 31 日  
(第 5 期)

## I 総括

発足以来 16 年が経過し、公益財団法人へ以降後 5 期目となる平成 29 年度は、農業離れが一層深刻化する京北地域に於いて、農業公社として公社の行う公益事業の柱でもあり重要な地域課題にもなっている、優良農地の保全や農業を守る担い手農家の確保・育成に具体的に取り組むため、京都府が主催する農林漁業就業相談会に於いて相談のあった 1 名を受入れ、新規就農者として 2 年後を目途に自立出来るよう、育成に取り組んでまいりました。

農業離れに伴い、農地に伴う相談も受ける事が多く、担い手農家の規模拡大や効率的な農業を行うための農地の集積事業として、平成 26 年度から受けてまいりました国の『農地中間管理事業制度』による、京北地域の窓口業務は 9 月で終了いたしました。農地利用集積円滑化団体として、従来の『農地利用集積円滑化事業』による、農地売買や農地貸借など、農地集積に係わる相談を多く受ける事となり、6 件の売買物件を平成 30 年度へ引き継ぎ、完結する事となっています。

公益事業としては、他にも(公財)京都市学校給食協会とのつながりの中で、平成 29 年度から京北 3 小学校への米飯給食用京北米「コシヒカリ」の供給が行える事になり、約 1,200kg の米の納入ができた事により、「地産地消」に伴う取り組みの事業量拡大を図る事ができました。

地域唯一の公共交通機関として、運行している京北ふるさとバスに於いては、平成 28 年度に実施された社会実験の結果に基づく、ダイヤの一部変更や宇津線に於ける児童のふるさとバスでの朝の通学、あるいは「美山・京北バス旅ルート」の企画運行などにより、年々乗車人数が減少してきた昨今の現状の中で、前年度よりも約 5 千人多い 7 万 1 千人を超える乗車実績を得る事ができました。

公益事業を補完するための収益事業について、貸館事業では、新たに上弓削町越木に寄付いただいた土地・建物を、10 年間の契約により『田舎ぐらし体験施設』として活用する事により、使用料収益を得る事となりました。

しかしながら、その施設の整備に伴う初期投資や、公社施設の葬祭での利用が、家族葬など葬儀形態の移り変わりにより 30 件前後に減少している事から、平成 29 年度の貸館事業全体としては大きく収益を伸ばす事はできませんでした。

また、大型アウトドアー施設である「宇津峡公園」については、自然と季節感を味わえるイベントの取組みを行うものの、コテージ及びデイキャンプ場の利用減少に伴い収益を伸ばす事ができず、「道の駅ウッディー京北」の喫茶部門についても、新しく仕出し弁当に取り組む、法要等での利用を伸ばしてまいりましたが、かかるコストも大きく、収益確保に困難を極めました。

平成 29 年度は、実情に即した事業収支予算計画により、当初よりマイナス予算でスタートしており、決算で結果が残せるよう、公益事業、収益事業を問わず原価意識と収益確保を意識して取り組んでまいりましたが、前年と比較すると大幅に改善されたものの、プラス収支で事業年度を締めくくる事はできませんでした。

なお、京北の『農の学校』としての機能を発揮出来る公社施設の建設については、今回の「過疎地域自立促進特別措置法」の基で実現されるよう、今年度も京都市所管課と話し合いを行いました。平成 30 年度で予算化されるに至らず、今後の事業展開や地域内の遊休施設の活用と併せ進める方向となっています。

## II 理事会・評議員会の開催

### 《 理事会 》

第1回理事会 平成29年4月12日(水)

- 1 役員等(理事・監事・評議員)の改選に伴う評議員選考委員会への推薦候補者の選考についての件

第2回理事会 平成29年5月2日(火)

- 1 評議員選考委員会への理事会推薦者の選考についての件

第3回理事会 平成29年5月12日(金)

- 1 平成28年度 事業報告書の承認の件
- 2 平成28年度 会計決算報告書の承認の件
- 3 平成29年度 第1回評議員会開催の件

第4回理事会 平成29年6月7日(水)

- 1 理事長並びに副理事長及び常務理事の選任の件

第5回理事会 平成29年10月25日(水)

- 1 合併記念の森創設事業の実施と寄付物件活用の事業区分の変更に伴う補正予算(第1号)(案)の承認について

第6回理事会 平成30年3月14日(水)

- 1 平成30年度 事業計画(案)の承認の件
- 2 平成30年度 収支予算(案)の承認の件
- 3 平成29年度 第2回評議員会開催の件

### 《 評議員会 》

第1回評議員会 平成29年5月29日(月)

- 1 平成28年度 事業報告書の承認の件
- 2 平成28年度 会計決算報告書の承認の件
- 3 任期満了に伴う理事・監事並びに評議員の選任の件

第2回評議員会 平成30年3月22日(木)

- 1 平成30年度 事業計画(案)の承認の件
- 2 平成30年度 収支予算(案)の承認の件
- 3 平成30年度 役員報酬総額の承認の件

### Ⅲ 平成 29 年度 主要事業の内容

#### 1. 管理部門

将来を見据え、地域からの期待や要望に応えられる計画的な施設や組織整備、経営の改善等、健全な公社作りのために取り組んでまいりました。

##### 【施設整備】

耐震対策に伴う公社の建替えについて、新規就農者支援対策も目的とした京北の「農の学校」として、「過疎地域自立促進特別措置法」の基で実現されるよう京都市所管課とも何度も打ち合わせを行い、具体案を検討してまいりましたが、結果として平成 30 年度に於いても予算化されることはなく残念な結果となりました。

しかしながら、京都市から新しく精米プラント施設整備について提案いただき、その実現や従来からの有害獣対策による加工場の建設、あるいは地域交通事業部事務所等の移転や、道の駅の整備などと併せ、今後も引き続き施設整備について進めて行きたいと考えています。

##### 【組織強化】

定款や各種規程を遵守し、定期的な所属長・出納責任者会議も開催するなか、管理者の資質向上に取り組むとともに、先を見越した人材(職員)の確保にも取り組みました。

また、安定した経営を行っていくために、収支を重視し事業別に採算の取れる事業運営に取り組んでまいりましたが、前年度よりも飛躍的に改善されたものの、平成 29 年度についても事業収支は厳しい結果となりました。

##### 【その他】

公社事業の紹介や事業利用を促すため、機関紙である「ほくほくだより」を 2 回発行いたしました。

#### 2. 事業部門

##### (1) 農地利用集積円滑化事業

京北地域の実態を見ると、農地・農業に関する事業は今後ますます重要視される事業であり、本公社としては農業公社としての役割を果たすため、本事業を公社事業の柱として取り組むとともに、農地利用集積円滑化団体として、農地の「中間保有・再配分機能」を活かし、農地の借り受けや貸し付け並びに売買等に関わり、担い手農家の経営規模拡大や新規就農者への支援活動につながるよう積極的に取り組んでまいりました。

特に、京北地域の窓口と成っている「農地中間管理機構制度」による農地集積については、取り組み当初からの預かり物件の整理を含め、平成 29 年度開始から積極的に貸し手と借り手のマッチングに至るまでの取り組みをすすめてまいりました結果、平成 29 年度は、計画を大幅に超える 13 件 67,405 m<sup>2</sup>の成立実績を残すことができました。

しかしながら、国では農地集積が「農地中間管理機構制度」の活用に移行する傾向があるものの、種々の条件をクリアしなければ成らないことや、マッチングに至るまでに時間を要する事などから、平成 29 年 9 月末で本事業に於ける京北

地域の窓口業務を終了いたしました。

今後は、公社が従来取り組んできた農地利用集積円滑化事業に於いて、農地集積のための利用権設定による農地の貸し借りや、農地売買について取り組む事とし、平成 30 年度の実績となる継続物件も抱えています。

〔農地利用集積円滑化事業実績〕 ※ 平成 29 年 4 月 1 日～平成 30 年 3 月 31 日迄

◇ 平成 29 年 4 月 1 日現在の継続物件	
一時保有農地件数	0 件
◇ 買入れ農地 (田)	
件 数	0 件
◇ 売り渡し農地 (田)	
件 数	0 件
◇ 平成 29 年度末の平成 30 年度への継続物件	
手続き中の物件数	6 件
◇ 利用権設定	
件 数	0 件

〔農地中間管理制度による実績〕

◇ 成立件数 (マッチング件数)	
(平成 29 年度集積計画 35,000 m <sup>2</sup> )	
	13 件 (27 筆) 67,405 m <sup>2</sup> (計画対比 192%)
◇ 成立実績内訳	
山国地区	11 件 (22 筆) 53,103 m <sup>2</sup>
弓削地区	1 件 ( 2 筆) 6,145 m <sup>2</sup>
周山地区	1 件 ( 3 筆) 8,157 m <sup>2</sup>

## (2) 田舎の便利屋事業

### 【地域担い手確保事業】

地域の方々からの幅広い要望に応えるため、田舎の便利屋事業として多種多様な作業を受託し、リストによる人材登録者への作業依頼により取り組みを進めました。

草刈などの農作業を中心に、出来る限り多くの依頼に応えられるようまた、登録者への依頼も偏ることの無いよう取り組んでまいりましたが、登録者の年齢の高齢化と新しい人材登録者不足等により、以前の作業が受けられない状況や、一度に多くの人材が必要な作業依頼には対応できない状況が生じるなど、今後課題を残す現状となっています。

そのような状況のなかではありましたが、平成 29 年度の事業実績としては、秋以降に作業料金の見直しを行い前年度対比で受託件数が 50 件余り減少したものの、受託金額はほぼ前年並みの結果を残すことができました。

また、平成 29 年度より公社として担い手農家の確保・育成に具体的に取り組むため、2 年後の農業者としての自立を目指し 1 名の研修者を受入れ、育成に取り組みました。

◇ 登録者数 (平成 30 年 3 月 31 日現在)	
196 人 (60 歳以上 145 人、60 歳未満 48 人、団体等 3 団体)	

- ◇ 受託件数（平成 29 年 4 月～平成 30 年 3 月末）  
416 件（前年度 469 件）
- ◇ 作業延べ人数（平成 29 年 4 月～平成 30 年 3 月末）  
2,448 人（前年度 2,655 人）
- ◇ 受託金額（平成 29 年 4 月～平成 30 年 3 月末）  
28,039,492 円（前年度 28,026,980 円）

### 【農作業受託事業】

農業者(農家)の高齢化による農作業依頼に対応するため、農作業受託部会による春作業(畦付け・耕起・代かき・田植え等)並びに、秋作業(稲刈り・籾運搬・肥料散布・耕起等)の受託に取り組みました。

また、年度末には次年度に向けて作業受託料金の見直しを行いました。

#### [農作業受託実績]

◇ 春作業（受託件数	87 件)		
耕    起	21 件	370.27a	(再耕起含む)
代    か    き	22 件	401.85 a	(ハロー、ロータリー含む)
田    植    え	28 件	479.48a	
畦    付    け	11 件	2,107m	
そ    の    他	5 件	苗箱代 他	
◇ 秋作業（受託件数	86 件)		
隅    刈    り	12 件	15 枚	
刈    取    り	25 件	616.05 a	
籾    運    搬	19 件	27,913.80 kg	
耕    起	10 件	249.50 a	(ディスク、ロータリー含む)
そ    の    他	20 件	肥料散布、乾燥、籾摺り 他	

### (3) 地域活性化事業

#### 【地域特産物開発研究事業】

道の駅ウッディー京北における加工食品の取扱高は、総売り上げの 3 分の 1 を占めており、平成 29 年度も京北地域の特産物として、加工食品に力を注いでいるグループの商品を積極的に取扱い、昨年同様約 5 千万円の販売実績を残すことができました。

「地産地消」と「食育」の取り組みについては、(公財)京都市学校給食協会との連携を密にし、京北地域の各小学校へ給食資材として京北産農作物を納入しており、京北特産の「京北まごころ味噌」を市内各小学校でも使用いただいております。取扱高、量共に伸ばすことができました。

しかしながら、野菜については価格の高騰等により取扱高は増加しましたが、量については児童の減少や、生産者の減少等に伴う生産量の減少により、前年度以上の実績を伸ばすことはできませんでした。

そのような状況の中で、「地産地消」に対する(公財)京都市学校給食協会からの強い要望にお応えし、新たに平成 29 年度から京北の各小学校へ、本公社が生産する米飯給食用の「コシヒカリ」を納入できるようになり、前年度の約 9 倍に当たる 1,200kg 以上の供給ができたことは、今後も使用量を増やして

いただける計画のなかで、公社の事業目的である地域特産物振興や販売促進面に於いても、今後につながる取り組みとして大きな成果でありました。

なお、公社に管理を依頼されている農地(井戸、辻、上弓削)において、平成29年度も米や野菜(ジャガイモ、サツマイモ、玉ネギ、大根、白菜等)を独自栽培し、学校給食への提供、ウッディー京北や各イベントでの販売を行うことができました。

道の駅ウッディー京北での端境期に於ける野菜の品不足は、依然として課題ではありますが、改めて生産者への協力依頼と併せ、新しい生産者確保による生産増の取り組み、あるいは公社が研修施設として設置したビニールハウスの有効活用等により、今後もその対策に取り組まなければなりません。

- ◇ 道の駅ウッディー京北委託販売者会員数 (平成30年3月31日現在)  
177名  
※ 内、生鮮食品販売者 103名 加工食品販売者 47名
- ◇ 道の駅ウッディー京北加工食品販売高 (平成29年4月～平成30年3月末)  
49,904,635円 (前年度実績 50,210,850円)
- ◇ 道の駅ウッディー京北野菜販売高 (平成29年4月～平成30年3月末)  
27,138,442円 (前年度実績 26,783,864円)
- ◇ 学校給食地産品取扱高 5,974,264円 (平成29年4月～平成30年3月末)
  - 野菜 531,564円 (前年度実績 489,438円)
  - 納品総重量 1,172kg (前年度実績 1,367kg)
  - 米 457,520円 (前年度実績 53,920円)
  - 納品総重量 1,204kg (前年度実績 135kg)
  - 味噌 4,985,180円 (前年度実績 4,466,421円)
  - 納品総重量 8,170kg (前年度実績 7,821kg)

#### 【ふるさと振興等調査研究事業】

京北地域への定住促進を図るため、空き家情報の提供による相談者への対応に取り組むとともに、11年目となる「市民農園」の運営に取り組み、農園利用者との交流と地域活性化並びに農地の活用を図りました。

#### ① 空き家情報の提供による定住促進

京北地域には、250戸を超える空き家があるにもかかわらず、空き家提供者はごく僅かであるため、就農と併せた定住相談を主に受けて参りましたが、相談者の要望を満たし定住に結びつけるための情報提供が乏しく、問い合わせや相談に十分な対応が出来ない状況であり、京北地域の空き家相談窓口となっている、京都市(京北出張所)のかがやき隊の取り組みでは、京北地域全体で11件の定住実績がありましたが、公社としての実績は1件のみで、満足な結果を残すことはできませんでした。

- ◇ 平成29年度取り組み実績 (平成29年4月～平成30年3月末)
  - 新規空き家登録件数 0件
  - 定住者件数 1件
  - 相談受付件数 3件

## ② 市民農園「京北ふるさと農園さんりょう」の利用者拡大と運営

開園 11 年目となる市民農園では、地域活性化の一環として農園を通じて利用者との交流を図り、土・日、祝祭日を中心に京北地域へ来ていただけるよう取り組みを進めました。

農園の利用については、高齢化等により従来からの利用者の継続利用や、複数区画の利用が減少している状況にあります。

そのような現状の中、年間を通じ利用者の募集も行い、最終的に平成 29 年度の実績としては、利用者は 18 名で利用区画については昨年より減少し 26 区画の利用となりました。

恒例となっている秋の収穫祭では、農作物の品評会を行い、昼食時には農園利用者、地元寺山地域の住民の方々、公社関係者、合わせて 39 名が、炊き込みご飯や猪鍋などで昼食をとりながら、交流を深めることができました。

なお、農園の空き区画については、公社イベントでの使用や販売のための野菜を栽培し有効活用いたしました。

### ◇ 平成 29 年度「市民農園」利用実績

募集区画数 …… 57 区画

利用区画数及び利用者数 …… 26 区画、18 名

※ 平成 28 年度 35 区画、22 名

年間利用料 …… 一区画(約 40 m<sup>2</sup>)当たり 15,000 円

### ◇ 市民農園でのイベント

収穫祭 …… 実施日：11 月 25 日

参加者：39 名(農園利用者、地域住民、関係者(京都市、JA、公社))

## 【都市と農山村交流事業】

都市住民との交流により地域活性化を図るため、年間計画として市民農園や道の駅ウッディー京北等でのイベントを開催し、都市住民を京北地域に呼び込むとともに、他地域でのイベントにも積極的に参加し京北地域の PR 活動に努めました。

[平成 29 年 4 月～平成 30 年 3 月末 主催イベント]

### ◇ 市民農園 (1 回)

- ・ 11 月 25 日 市民農園収穫祭  
内容：品評会・昼食を囲んでの交流・ボン菓子  
猪鍋・炊き込みご飯・焼き芋

### ◇ 道の駅ウッディー京北

- ・ 5 月 3～5 日 GW 期間限定イベント  
内容：委託販売者による店頭販売
- ・ 定期的な土日イベント (20 回)  
内容：委託販売者による店頭販売

[平成 29 年 4 月～平成 30 年 3 月末 参加イベント]

◇ 京北地域内 (2 回)

- ・ 8 月 16 日 京北夏まつり  
内容：鹿肉コロッケ販売
- ・ 11 月 3 日 京北ふるさと祭り  
内容：野菜販売・鹿肉カレー販売

◇ 京北地域外 (16 回)

- ・ 5 月 28 日 龍安寺イベント (龍安寺参道)  
内容：野菜販売等
- ・ 7 月 22 日 右京区民イベント (わかさスタジアム)  
内容：野菜等の販売
- ・ 9 月 3 日 伏見ふれあいプラザ 2017 (京都パルスプラザ)  
内容：弁当・焼鯖寿司販売
- ・ 10 月 9 日 みんなのスポーツフェスタ (わかさスタジアム)  
内容：弁当の販売
- ・ 10 月 15 日 深草ふれあいフェスタ (藤ノ森神社)  
内容：野菜等の販売
- ・ 10 月 28 日 右京区民ふれあいフェスティバル (太秦安井公園)  
内容：野菜販売・鹿カレー販売
- ・ 11 月 12 日 龍安寺イベント (龍安寺参道)  
内容：野菜販売等
- ・ 11 月 18 日 京の農林秋まつり (岡崎公園)  
内容：野菜・玉子かけごはん・焼き芋の販売
- ・ 11 月 19 日 京野菜フェスタ (岡崎公園)  
内容：野菜・弁当の販売
- ・ 11 月 21 日 護王神社子宝芋イベント (護王神社境内)  
内容：子宝芋の販売と鍋の振舞い
- ・ 12 月 9 日 右京区役所クリスマスイベント (さんさ右京)  
内容：野菜・弁当の販売
- ・ 12 月 16 日 古川町商店街イベント  
～17 日 内容：野菜販売
- ・ 12 月 22 日 京都プロジェクト崇仁新町プレイイベント (崇仁新町)  
～24 日 内容：野菜等販売
- ・ 2 月 1 日 崇仁新町グランドオープンイベント (崇仁新町)  
～4 日 内容：野菜等販売
- ・ 2 月 10 日～各土曜日 崇仁新町出店  
内容：野菜等販売
- ・ 3 月 3 日 京都市イベント (寺町むもくてきカフェ)  
内容：野菜等販売

#### (4) 地域交通事業

##### 【京北ふるさとバス】

地域唯一の公的交通安全手段として、「公共交通空白地有償運送事業」の登録を受け、地域住民の安全・安心な“足”となるよう、京都市との連携のもとふるさ



とバスの運行に取り組んでまいりました。

年間を通じて安全なバス運行を行うため、公安委員会が実施する法定講習会に積極的に参加し、月一度のミーティングで学んだ知識を乗務員全員で共有できるよう取り組むとともに、地域バス案内所に於ける、京北地域をはじめ、南丹市営バスや西日本ジェイアールバスの交通案内や観光に関する問い合わせ対応、定期券の発券、共通回数券の販売など、お客様の利便性を図る取り組みも継続して行ってまいりました。

しかしながら、ふるさとバスの状況としては、中学生の通学に伴う乗車が、運営に大きく影響することとなっており、少子高齢化の地域の実態から年々厳しい運営状況となっています。

そのため、平成 29 年度も将来に亘って存続可能で地域住民に必要で、利便性のある効率的なバスの運行を行うために、平成 26 年度から継続して取り組まれてきた乗車人員の減少を防ぐための社会実験での結果を一部本格運行に移行し、今年度の新たな取り組みとして観光へ視点を置き「美山・京北バス旅ルート」として運行してまいりました。その結果を受け、運行収入は昨年対比で約 113%(約 220 万円)、乗車人員は、約 107%(約 5100 名)の増となり一定の結果を残すことができました。

また、3 回目となる、11 月 3 日に取り組んだバス祭りでは、西日本ジェイアールバス(株)の他、京都バス(株)にも参加頂き、多くの子供連れの方にバスへの関心を深めていただきました。

◇ 平成 29 年度運行実績 (平成 29 年 4 月～平成 30 年 3 月末)			
乗車人員	71,459 人	(前年度実績)	66,315 人)
運行収入	18,056,050 円	(前年度実績)	15,849,140 円)

#### 【スクールバス】

京北地域の児童生徒の通学及び教育活動のため、京都市教育委員会から全面委託を受け、18,570,000 円の委託料により、スクールバス運行を行ってまいりました。

社会実験に合わせた運行も行うなか、学校や京都市教育委員会や各小中学校との連携を密に図り、ふるさとバス同様安全運行を第一の目標に掲げ、事故を起こすことなく一年間運行することができました。

### (5) 公共施設管理事業

#### 【地域特産物需要拡大センター「道の駅ウッディー京北」管理運営事業】

平成 29 年度は指定管理者として 3 年目の年であり、「道の駅」としての三つの機能(休憩機能・情報発信機能・地域の連携機能)を果しながら、京北地域の中心に属する地域の拠点施設として、施設の管理運営事業に取り組みました。

ウッディー京北は、地域活性化や地域振興の拠点となる委託販売事業と、本公社運営に影響する重要な収益事業である喫茶部門に分かれております。

委託販売事業としては、天候に左右される中で、生産者の方々のご協力により、昨年を上回る実績を残すことができました。

喫茶部門については、新メニューの発案や販売スペースの空いた場所を活用し、自社のお弁当販売、公社葬祭事業と連携し、初七日のお弁当対応をする中で、委託販売事業同様に、昨年を上回る実績を残せました。

◇ 来館者数	410,501 人	(前年度 413,573 人)
◇ レジ通過者	129,543 人	(前年度 128,327 人)
◇ 売上合計金額	156,399,562 円	(前年度 147,617,293 円)
◇ 分類別売上明細		
加工食品	49,904,635 円	(前年度 50,210,850 円)
農産品	52,616,778 円	(前年度 48,320,554 円)
木工品等	12,265,857 円	(前年度 12,595,098 円)
酒類	3,723,098 円	(前年度 3,763,709 円)
喫茶	32,304,791 円	(前年度 27,079,662 円)
ソフトクリーム	5,584,403 円	(前年度 5,647,420 円)
<hr/>		
合計	156,399,562 円	(前年度 147,617,293 円)

#### 【宇津峡公園管理運営事業】

京都市指定管理者制度に基づく指定管理者として3年目の年であり、都市住民との交流施設として、京北の自然環境を生かしたアウトドアを楽しむ施設として管理運営し利用拡大に取り組みました。

集客をはかるため自然と季節感を味わえるイベント等に取り組み、ラフティング体験、鮎つかみ体験をはじめ、ハロウィンナイトやウナギつかみ体験など、日常で体験できないイベント開催により集客と滞在時間増に取り組み、リピータ率を高めるためポイントカードによる利用者サービスは、374名の方に再入園いただくなど、話題性をはかりながら集客に取り組みました。

オートキャンプサイト利用はブームもあり増加状況となりましたが、コテージ棟利用はグランピングキャンプブームの影響もあり利用減となり、デイキャンプ利用も周辺河川や都市河川敷の開放等により入園者減となりました。

また、10月の全土日は雨天と台風接近による天候による影響を受け、デイキャンプとオートキャンプの利用激減が収益に大きく影響しました。

◇ 宇津峡公園有料入園者数（平成29年4月～平成30年3月末）	11,579 名	(前年度実績 11,773 名)
	(大人 9,065 名、小学生 2,514 名)	(未就学無料入園者 1,874 名)
◇ 宇津峡公園収入金額（平成29年4月～平成30年3月末）	23,324,191 円	(前年度実績 23,495,951 円)
◇ 利用料収入	19,046,110 円	
◇ 事業等収入	4,278,081 円	
◇ コテージ棟利用数	613 棟	(前年度実績 662 棟)
◇ オートサイト利用数	757 区画	(前年度実績 734 区画)
◇ イベント等参加者数		
鮎つかみ体験	861 匹	(前年度実績 705 匹)
ラフティング体験	実施回数 17 回	体験者数 438 名
	(前年度 9 回 206 名)	
うなぎつかみ体験	10 匹	(前年度 7 匹)

ぼた餅づくり体験 5家族 (前年度 5家族)  
 ハロウィンナイト 子供 44名 大人 90名  
 (前年度 子供 57名 大人 143名)

◇ ポイント入園実績

発行枚数 9,467枚 (累計 29,703枚)  
 ポイント利用による入園者数 374名 (累計 761名)  
 (コテージ棟 57名、オートサイト 80名、デイキャンプ 237名)

(6) 貸館事業

【葬祭関連事業】

収益事業として公益的な事業を補完し、ふるさと公社の安定経営に向けた財務基盤を確立するための貸館事業として取り組んでまいりました。

老朽化に伴う施設の改修が課題ではあるものの、マイクロバスによる火葬場への送迎や初七日法要対応など、利用いただく地域の皆様に利便性を感じていただける事業となるよう利用促進に努めました。

地域の高齢化や核家族化が進み、住民意識も変化するなか、小規模で密やかに執り行われる家族葬が増えるなど、葬儀形態も大きく移り変わる現状にあるため、情報紙等で家族葬対応が可能であることもお知らせし、実績として前年よりも若干多い32件の年間利用をいただきました。

◇ 会場利用実績

平成29年4月～平成30年3月末までの利用件数 32件  
 オープン(平成16年)以降の累計 502件

【田舎くらし体験】

上弓削町越木に寄付いただいた土地・建物を有効活用するため、『田舎くらし体験施設』として10年間の賃貸借契約により利用いただき、収益事業として公社の安定した収益の確保に努めてまいりました。

(7) 農産物処理加工施設整備事業 (大豆の里京北「第6次産業」化拠点施設整備事業)

平成24年度に施設が完成し、施設名称を『山国「水・土・里の館」』として、事業開始から5年が経過する中、京北まごころみその生産を中心に、納豆餅やその他農作物の加工生産及び販売に取り組んでまいりました。

実質の管理・運営は山国さきがけセンターが行っており、公社は事業主体として、施設に関連する減価償却などの事務処理関係についての役割を担ってまいりましたが、当初予定の平成29年度中の公社から山国さきがけセンターへの施設譲渡については、京都市とさきがけセンター、公社の三者の話し合いが、具体的にまとまっていなかったため、さきがけセンターの運営状況を十分に検討する中で、平成30年度には方向付けをしたく考えます。

《参考》 平成29年度 京北まごころ味噌加工実績

仕込実績	36,750 kg	※ 前年度	20,820 kg
売上実績	8,003,925 円	※ 前年度	10,476,313 円

## (8) 合併記念の森創設事業

京都市からの委託事業として平成 25 年度から受託しており、平成 29 年度は 11 月～12 月は月 2 回程度、1 月～3 月は月 1 回程度の「合併記念の森」内の作業小屋の維持管理や周辺の草刈り作業等に取り組みました。

また、12 月 3 日及び 3 月 11 日に実施された森づくりイベントにも積極的な協力を行いました。

◇ 事業委託料 490,320 円

## (9) 山村地域担い手育成定着支援事業

平成 27 年度の補助事業により導入した農業機械を、支援対策として新規就農者へ貸付たり、あるいは公社の管理農地での農作物栽培等に使用するなど有効的に活用いたしました。

※ 平成 27 年度の本事業による導入機械

5 条植え田植機 1 台、管理機 1 台、畦付機 1 台、  
自走式草刈機 1 台